

サンホスピタル

Sun Hospital

ISHII MEDICAL Corp. Public Relation Committee since 2006

2025 Winter

Vol. 77



特集

P2-3 整形外科専門研修プログラム基幹施設認定のご報告

P4-5 最新医療機器のご紹介

石井病院

整形外科専門研修プログラム

基幹施設に認定されました

この度、当院は『整形外科 専門研修プログラム(後期研修)』として研修医を受け入れるための基幹施設として、公益社団法人 日本整形外科学会(認定番号:1624100001)から認定を受けました。群馬県内で基幹施設として認定されているのは現時点で当院のほかに群馬大学医学部附属病院と前橋赤十字病院の3施設のみです。

本項では、整形外科の医長である三秋恒平、および指導医として研修医に関わる土屋雅信から、基幹施設としての心構えと当院整形外科の魅力を皆様にお伝えいたします。

より質の高い医療と充実した研修を提供し、
次世代の整形外科医の育成に全力を尽くす

医局長兼医長 三秋 恒平

出身大学 東海大学
 専 門 整形外科一般・股関節
 所属学会
 日本整形外科学会
 日本股関節学会
 日本人工関節学会
 日本骨折治療学会
 日本骨粗鬆症学会
 資 格 等
 医学博士
 日本専門医機構 整形外科専門医
 日本整形外科学会 認定運動器リハビリテーション医



基幹施設として認定を受けた 現在のお気持ちは?

整形外科専門研修プログラムの基幹施設として認定されたことを大変光栄に思います。この認定は、私たちの診療と教育への取り組みが評価された証です。今後は、より質の高い医療と充実した研修を提供し、次世代の整形外科医の育成に全力を尽くしてまいります。

整形外科専門研修プログラムとは?

当院整形外科の魅力について

整形外科では、患者さん一人ひとりに最適な治療を提供することを心がけています。脊椎、関節、骨折など幅広い疾患に対応し、低侵襲手術から高度な手術まで実施可能です。また、手術以外の保存療法やリハビリテーションも充実させ、早期回復と日常生活への迅速な復帰を全力でサポートしています。



整形外科専門研修プログラム基幹施設認定 当院の取り組みと展望

専門性の向上 専門研修プログラムを通じて、最新の知識と技術を備えた整形外科医を育成します。これにより、より質の高い医療サービスの提供を目指します。

幅広い対応力 様々な整形外科疾患に対する診断・治療経験を積むことで、より多様な症例に対応できる体制づくりに取り組みます。

継続的な進化 最新の医療情報や技術を常に取り入れることで、当院全体の医療の質向上に努めます。

医師の教育・指導に必要なことは?

医師は教科書などで得た知識を基に臨床の仕事をしていきますが、その根幹には「人と接する仕事である」という重要な側面があります。まず大切なのは、患者さんと良好な人間関係を築くことです。そのためには、患者さんの話をよく聞き、何に一番困っているのか、どのような解決法を望んでいるのかを丁寧に汲み取ることが必要です。

そして、その理解を基に、一人ひとりの患者さんに合った治療法を提案していく。これが「実践的な問題解決能力」です。私たちは、この能力を若い医師たちに伝え、育成していくことが重要だと考えています。

当院整形外科の魅力について

当院整形外科の特徴は、多様な専門分野を持つ医師が在籍し、幅広い疾患に対応できることです。また、医師、看護師、理学療法士、作業療法士など、スタッフ間の連携が密接で、患者さんに寄り添った温かい医療を提供しています。専門性と思いやりを兼ね備えた当科で、安心して治療を受けていただけます。

土屋 雅信

出身大学 金沢医科大学

専門門 整形外科一般

所属学会

日本整形外科学会

日本骨折治療学会

資格等

医学博士

日本専門医機構 整形外科専門医

日本整形外科学会 認定リウマチ医

日本整形外科学会 認定運動器リハビリテーション医

日本スポーツ協会 スポーツドクター

ロコモアドバイスドクター

多様な専門分野を持つ医師が在籍。
患者さんに寄り添った温かい医療を提供



人工膝関節手術支援ロボット

ROSA Kneeシステム

RObotic Surgical Assistant

当院は、2024年6月に最新の人工膝関節手術支援ロボット「ROSA Knee（ロザ・ニー）システム」を導入しました。ROSA Knee は RObotic Surgical Assistant の略で人工膝関節置換術にて執刀医のサポートを行う手術支援ロボットです。六軸多関節ロボットアームと光学カメラユニットに分かれており、患者さんの膝の位置を正確に把握し、人工膝関節を置換するための骨切り量を0.5ミリメートル単位、角度を0.5度単位で設定が可能となります。

最先端の手術支援ロボットを活用した人工膝関節置換術では、骨切りやインプラントの設置をロボットがアシストします。これにより、低侵襲で合併症リスクの少ない手術の実現をめざします。

株式会社メディカルノートから

取材を受けました

2024年11月7日、株式会社メディカルノートから「人工関節手術支援ロボットの導入」をテーマに、当法人理事長 石井有希夫、当院整形外科医 磐田振一郎に対する取材が行われました。



理事長 石井有希夫



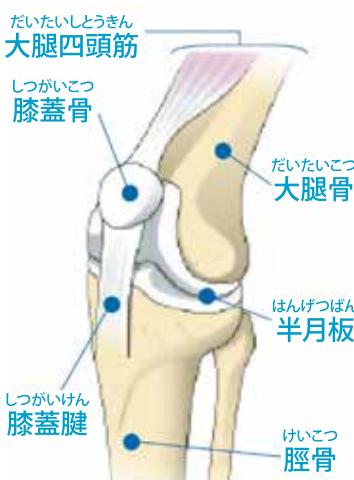
整形外科医 磐田振一郎

痛みのもとになる疾患は？

膝関節の痛みや変形の原因は、炎症・腫瘍・外傷によるものなど様々です。激しい痛みを引き起こす疾患としては変形性膝関節症がよく知られています。

●変形性膝関節症

膝関節は、毎日体重の負担を受けながら動かしているため、長年にわたって使つていると、軟骨が徐々に擦り減ります。加齢に伴い軟骨が十分に再生されなくなると、更に軟骨の下の骨も擦り減っていきます。そして関節の表面が「テコボコ」になり、滑らかな動きが阻害されて、生じた炎症から痛みを出すのが変形性膝関節症です。



かな動きを再現できるように、3つの部分から構成されています。整形外科では一般的な治療法として定着し、手術件数は年々増えており、今では国内で年間9万例以上にも上ります。



め、より精度の高い手術と人工膝関節の長期耐用が期待されます。

●患者さん一人ひとりに合わせた手術

膝関節は、骨の形だけでなく、靭帯などの軟部組織のダメージが動きに影響します。そのため実際の手術では、手術中に軟部組織の状態を確認し、骨を切除する角度や人工関節の設置位置の微調整が必要となります。手術支援ロボット ROSA は、リアルタイムでの計画変更も可能なため、患者さん一人ひとりの膝の状態に合わせて柔軟に対応できるシステムです。

人工関節置換術は、骨を削る量や人工関節をどのように骨に設置するかにおいて、医師の経験・技術や感覚が担うところが大きいと言われています。この人間の感覚によつて行われている重要な部分を、術中にはロボットが評価計測を補助し、医師の骨切りや人工関節の設置位置の確認をサポートすることで、より精度の高い安定した手術を可能にするのが手術支援ロボットの役割です。

手術支援ロボットで期待できること

●体への負担が少ない術前計画

術前に、患者さんの膝の状態を確認して手術計画を立てます。本機ではレントゲン撮影のみでも術前計画を行うことができます。ロボットを活用して画像検査で得られた患者さんの骨格情報をコンピュータに入力し、患者さんの個々の三次元画像モデルを作成します。

人工膝関節置換術とは

人工膝関節置換術とは、変形性膝関節症や関節リウマチによって傷んで変形した膝関節の表面を取り除いて、金属やセラミック、ポリエチレンなどで作られた人工関節を骨にかぶせる手術です。人工関節は、関節の滑ら

●より正確な手術

人工膝関節を置換するための骨を削る量を0・5ミリメートル単位、角度を0・5度単位で設定することが可能です。そのた

保険適用について

「ROSA Kneeシステム」を用いた手術の費用は保険適用となり、高額療養費制度の対象です。また、手術の適応については、医師の診断が必要です。

防災への取り組み

1. 安全 Safety

当院は10月・11月を防災月間とし、職員一人ひとりの防災意識を高め、より安全な医療の提供を目指しております。

医療法人石井会 行動規準 (S・C・E・H)

行動規準「S・C・E・H」は、私たちが医療をあらゆる場面で実践する際に、心掛けなければならない4つの要素を表しています。

1. 安全 Safety

2. 清潔 Clean(Cleanliness)

3. 効率 Efficiency

4. おもてなし Hospitality



消防競技会への参加

総合優勝! 2連覇を達成!

令和6年10月3日、伊勢崎市佐波防火協会主催の消防競技会が伊勢崎市あずま総合運動場で開催されました。本競技会では伊勢崎市と玉村町の19事業所、約100名が参加し、消火および屋内消火栓の操作の正確性とタイムを競いました。

石井病院は、女子消火器の部で第1位と第4位に入賞し、男子消火器の部では第2位と第3位に入賞しました。続く消火栓団体の部では女子団体が優勝、男子団体は準優勝を決め、これにより念願の総合2連覇を達成しました。

防災訓練の実施

秋季防災訓練を実施しました

令和6年10月25日、秋季防災訓練を実施しました。伊勢崎消防署北分署による立ち合いのもと、火災を想定した緊張感のある避難誘導訓練を行うことができました。また自主防災協力会の方々にもご協力いただき、消火器や屋内消火栓を実際に操作することで、その操作方法を学びました。石井病院では、防災意識の強化を目的として毎年訓練を実施しています。こうした取り組みを続けることで、非常時に適切な行動がとれるよう、職員一同心掛けてまいります。



災害医療活動訓練への参加

地域の安全と医療体制の強化

令和6年11月16日、伊勢崎佐波地域で初めての合同災害医療活動訓練が行われました。この訓練は、万が一の災害時に備え、医療従事者が迅速かつ効果的に対応できるよう実践的な技能を磨く取り組みです。今回は、「これまでに経験のない大雨による水害」を想定し、粕川と広瀬川流域の氾濫警戒情報が発出されたという設定で実施されました。当院を含む地域の医療機関が協力して行う初めての試みでしたが、参加者全員が真剣に取り組み、貴重な学びの機会となりました。

